（９）ＦＡＣ６０３１　キャンプ・マクトリアス（Camp Mcturcous）

ア　施設の概要

（ア）所在地：うるま市（字川崎（かわさき）、字西原（いりばる））

（イ）面　積：379千㎡

単位：千㎡

市町村名	国有地	県有地	市町村有地	私有地	計
うるま市	33	－	1	345	379

（ウ）地主数：413名

（エ）年間賃借料：４億２千８百万円

（オ）主要建物及び工作物

○建　物：小学校、幼稚園、教会、消防舎、体育館、家族住宅、倉庫、青少年センター、ボイラー室ほか

○工作物：保安柵、バスケットコート、サッカー場、プール、駐車場、貯水槽、上下水道ほか

（カ）基地従業員：19名（ＭＬＣ 17名、ＩＨＡ ２名）

イ　使用状況

（ア）米軍部隊名

○管理部隊名：米海兵隊太平洋基地在沖米海兵隊基地司令部

○使用部隊名：－

（イ）使用主目的及び使用条件（５．１５メモ等より）

○使用主目的：宿舎、管理事務所及び訓練場

○使用条件：

合衆国軍隊は、広範囲の有視界飛行による航空機の運用のため、キャンプ・マクトリアス上空、高度2,000フィートまでの全空域の使用を許される。

（ウ）施設の現状及び任務

この施設は、うるま市の中心部にある安慶名区の西側、県道８号線沿線の南側にあり、昭和50年８月に在沖海兵隊基地司令部がキャンプ瑞慶覧に移駐するまでは、沖縄にある海兵隊施設の維持、管理及び海兵隊の後方支援業務を統括する任務をもっていたが、現在では、主に家族住宅が設置され、小学校、スポーツ施設等が整備され、学校、住宅地区として使用されている。

四軍共同の刑務所もあったが、昭和61年にキャンプ・ハンセンへ移設された。

当該施設用地は、宿舎等の用地として大半が人工的に変更されており、わずかに樹林地が残されている。

（エ）共同使用の状況

ａ　地位協定第２条第４項（ａ）：共同使用

共同使用者	使用目的	面積	使用開始年月日
○沖縄電力株式会社	電柱等敷地	０千㎡	昭47．５．15

ｂ　地位協定第２条第４項（ｂ）：なし

（オ）沿革

昭和20年	米陸軍貨物集積所として使用開始。
昭和32年４月１日	在沖米海兵隊基地司令部設置。
昭和39年６月30日	約6,000㎡を返還。
昭和40年10月	在沖米海兵隊基地司令部がキャンプ・コートニーへ移転。
昭和44年11月	在沖米海兵隊基地司令部が再びキャンプ・マクトリアスに戻る。
昭和47年５月15日	提供施設・区域となる。
昭和50年８月	在沖米海兵隊基地司令部がキャンプ瑞慶覧へ移転。
昭和60年10月31日	排水施設として、工作物（排水路）を追加提供。
平成元年	家族住宅296戸完成。
平成３年６月26日	家族住宅等として、建物約38,000㎡と工作物（下水等）を追加提供。
平成４年５月14日	土地約390㎡を返還。
平成４年７月２日	家族住宅等として、建物約24,000㎡と工作物（水道等）を追加提供。
平成４年８月31日	道路用地約640㎡を返還。
平成５年９月27日	保安柵として、工作物（囲障）を追加提供。
平成８年１月31日	道路用地約5,030㎡を返還。
平成８年９月26日	消防署等として、建物約530㎡と工作物（囲障等）を追加提供。
平成10年３月26日	囲障として、工作物（囲障）を追加提供。
平成14年７月９日	青少年センターとして、建物約660㎡と工作物（門等）を追加提供。
平成15年３月26日	学校として、建物約2,700㎡と工作物（門等）を追加提供。
平成24年７月11日	通信ケーブルとして、工作物（電話線路）を追加提供。

ウ　周辺状況等

（ア）地域との関わり

当該施設は、うるま市（旧具志川市）のほぼ中央に位置し、施設の東は市街地、西側及び南側は、住宅等が点在する地域である。

キャンプ・マクトリアスの所在するうるま市は、ほかにホワイト・ビーチ地区や嘉手納弾薬庫地区等が所在し、市面積に占める米軍基地の割合は7.1パーセントである。詳しくはキャンプ・コートニーの項を参照。

平成23年12月５日、キャンプ・マクトリアス内の建物内で燃料パイプとボイラー室を接続するホースが破損し、ディーゼル燃料約371ガロン（約1,404リットル）が流出し、そのうち少量が天願川へ流出した。

エ　返還計画・跡地利用計画

（ア）返還計画

なし。

（イ）跡地利用計画

策定されていない。